

第3章 まちづくりの目標

1. 将来像
2. 目標年次
3. 将来人口
4. まちづくりの目標

第3章 まちづくりの目標

I. 将来像

第5次南風原町総合計画では、まちづくりの基本理念を「平和・自立・共生」、将来像「ともにつくる黄金南風(こがねはえ)の平和郷(さと)」と設定し、「工夫と連携で産業が躍動するまち」「みどりとまちが調和した安全・安心のまち」「環境と共生する美しく住みよいまち」を目標としてまちづくりを進めています。

本都市計画マスタープランでは、本町の最上位計画である第5次南風原町総合計画の将来像である「ともにつくる黄金南風(こがねはえ)の平和郷(さと)」を継承します。

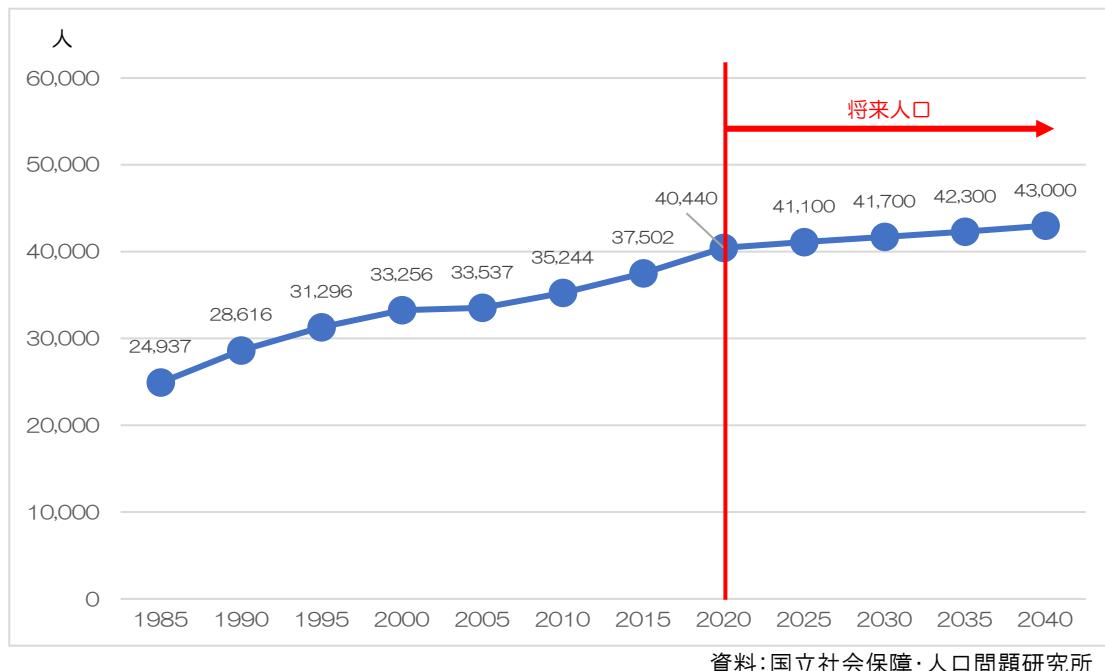
【 将 来 像 】 ともにつくる黄金南風(こがねはえ)の平和郷(さと)

2. 目標年次

本都市計画マスタープランは、2021年(令和3年)を基準年とし、2040年(令和22年)を目標年次とします。ただし、上位関連計画の改定や社会情勢の大きな変化などに対して柔軟に対応するため、必要に応じて計画の見直しを行います。

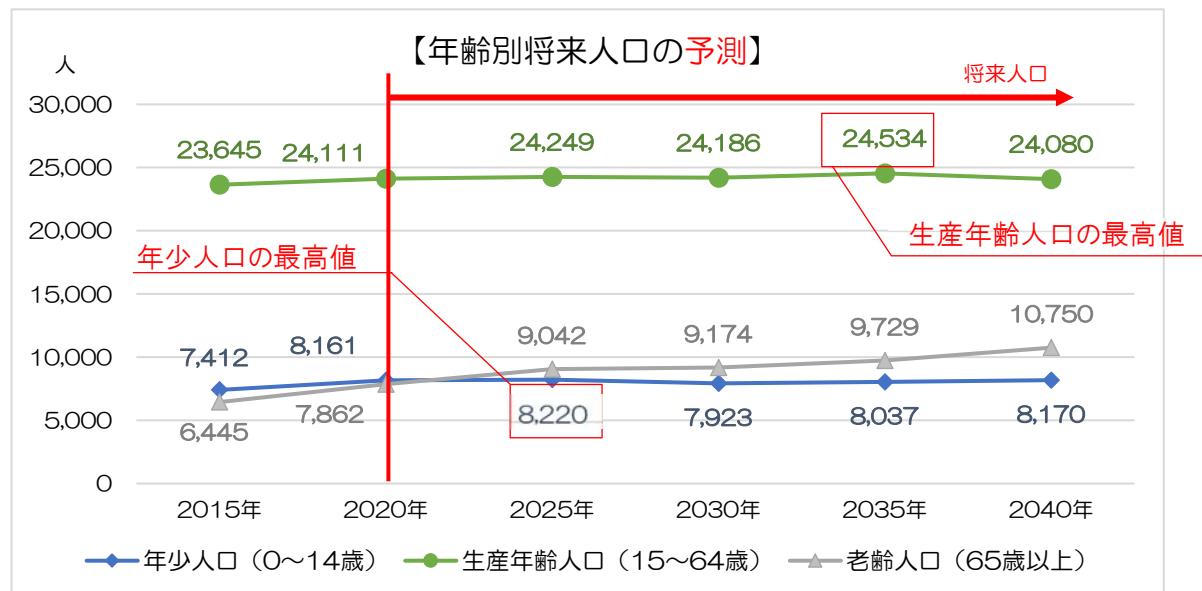
3. 将来人口

目標年次における本町の人口を43,000人と想定します。

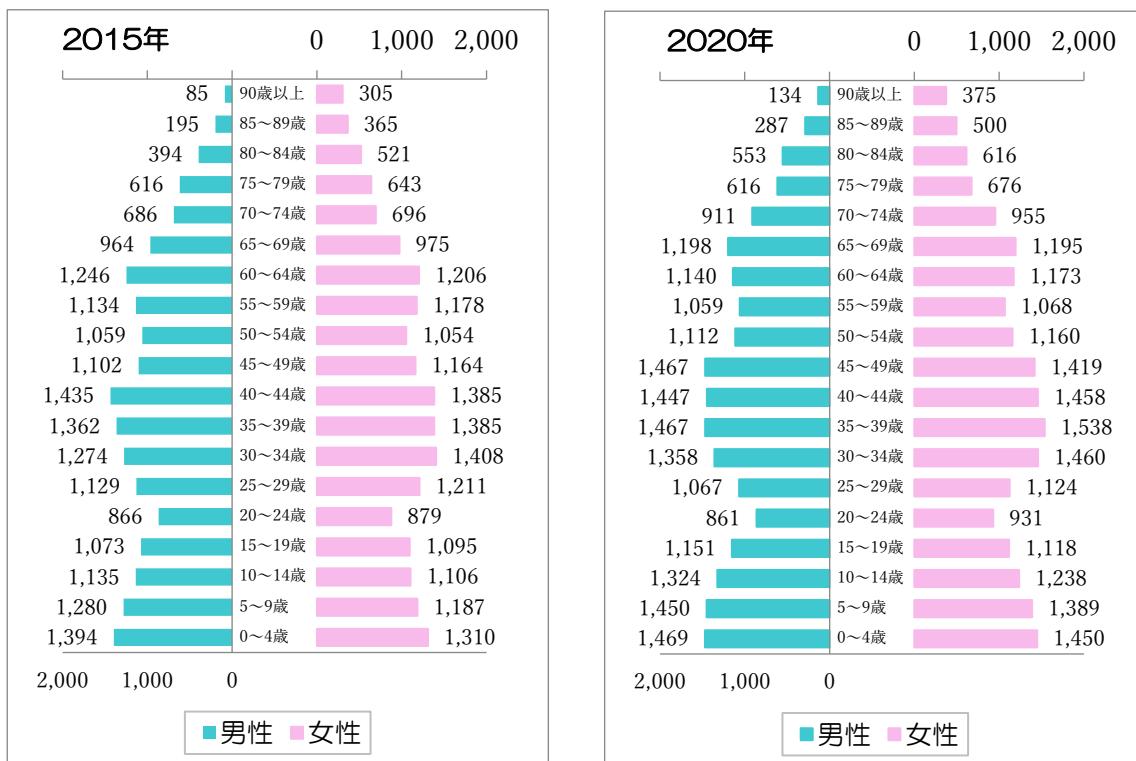


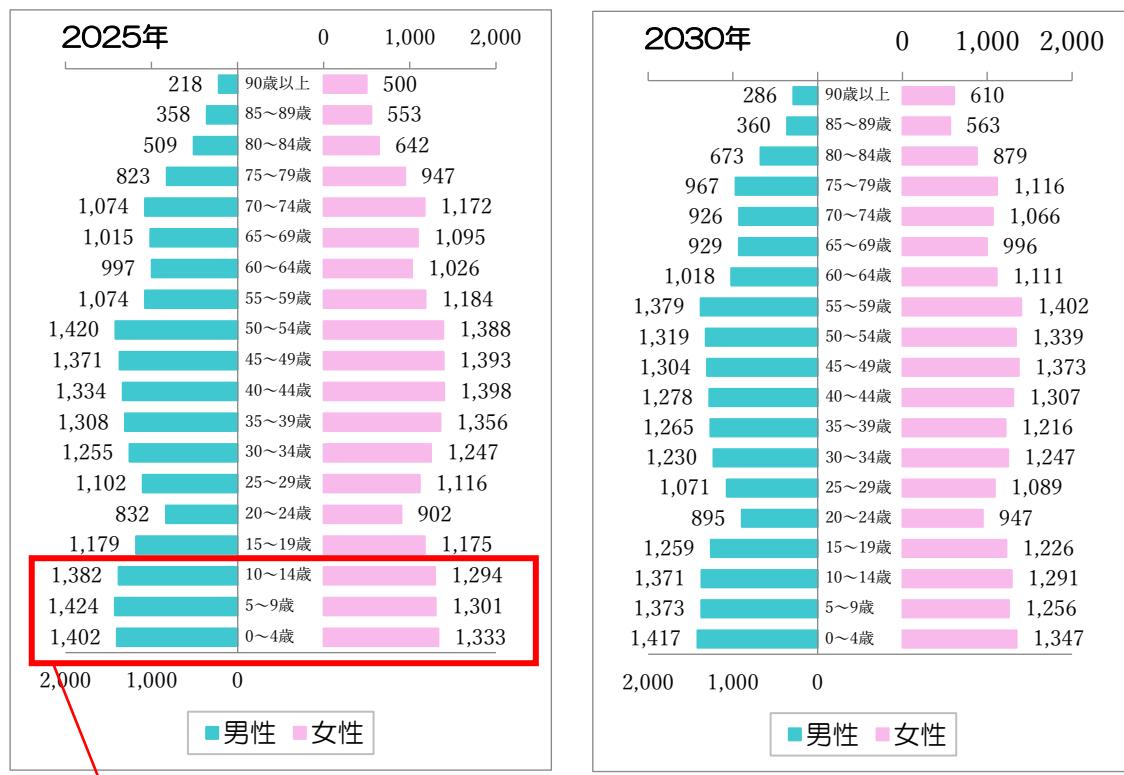
本町の人口は増加傾向にあり、2040年(令和22年)には43,000人に達すると想定されます。年齢別将来人口の推移をみると、年少人口(0~14歳)のピークは2025年(令和7年)で8,220人、生産年齢人口(15~64歳)のピークは2035年(令和17年)で24,534人となっています。老齢人口(65歳以上)は年々増加し、2040年(令和22年)には10,750人になる見込みです。

年少人口がピークとなる2025年(令和7年)までは、児童生徒数が増加することが想定され、その課題対応が必要です。生産年齢人口もおおむね増加が見込まれており、働く場の確保など本町の活力向上に関する課題対応が必要です。また、老齢人口の増加に対しては福祉の観点からの課題対応が必要です。

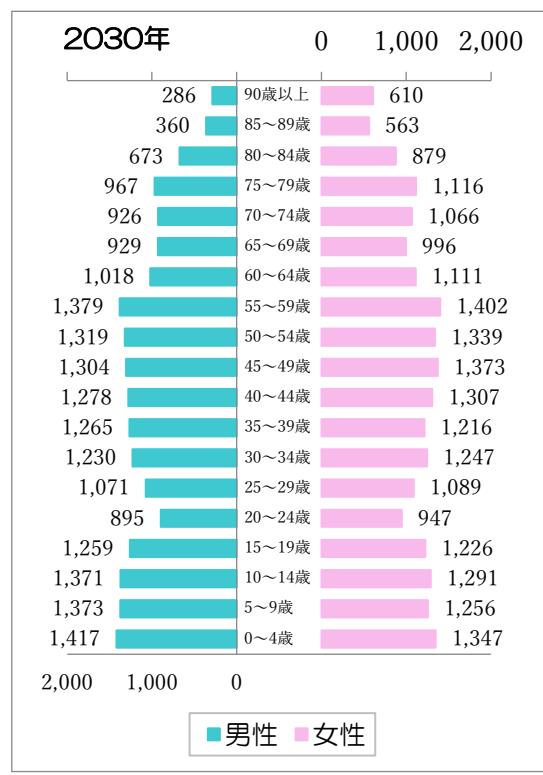


資料:国立社会保障・人口問題研究所

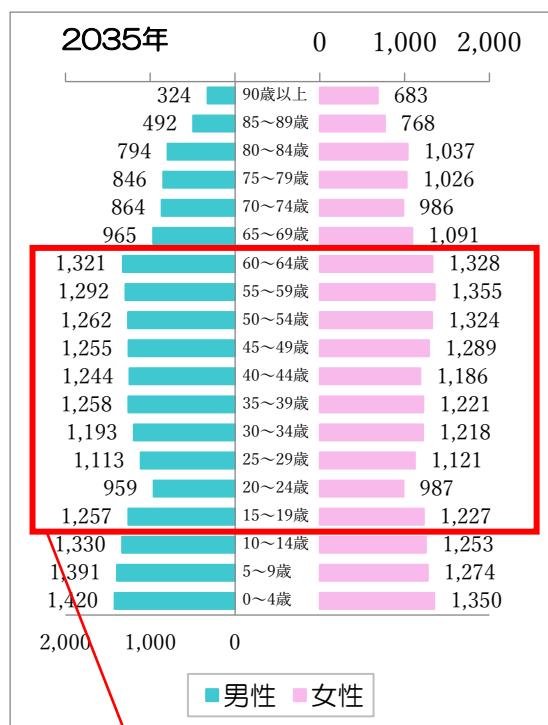




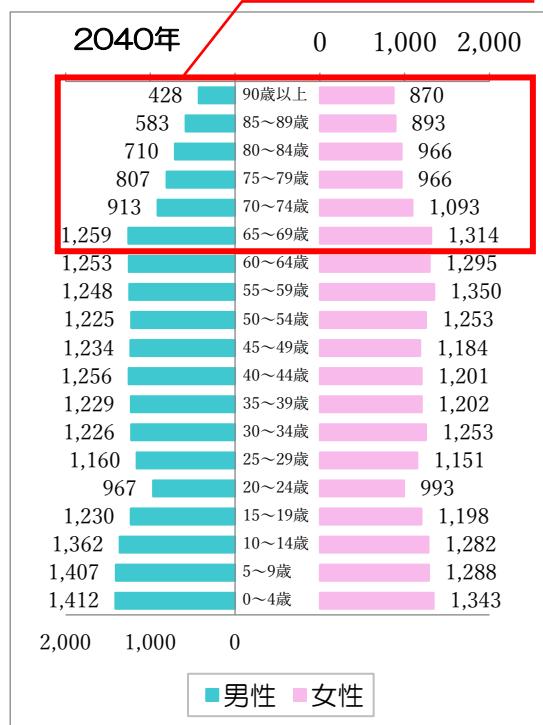
年少人口の最高値



老齢人口の最高値



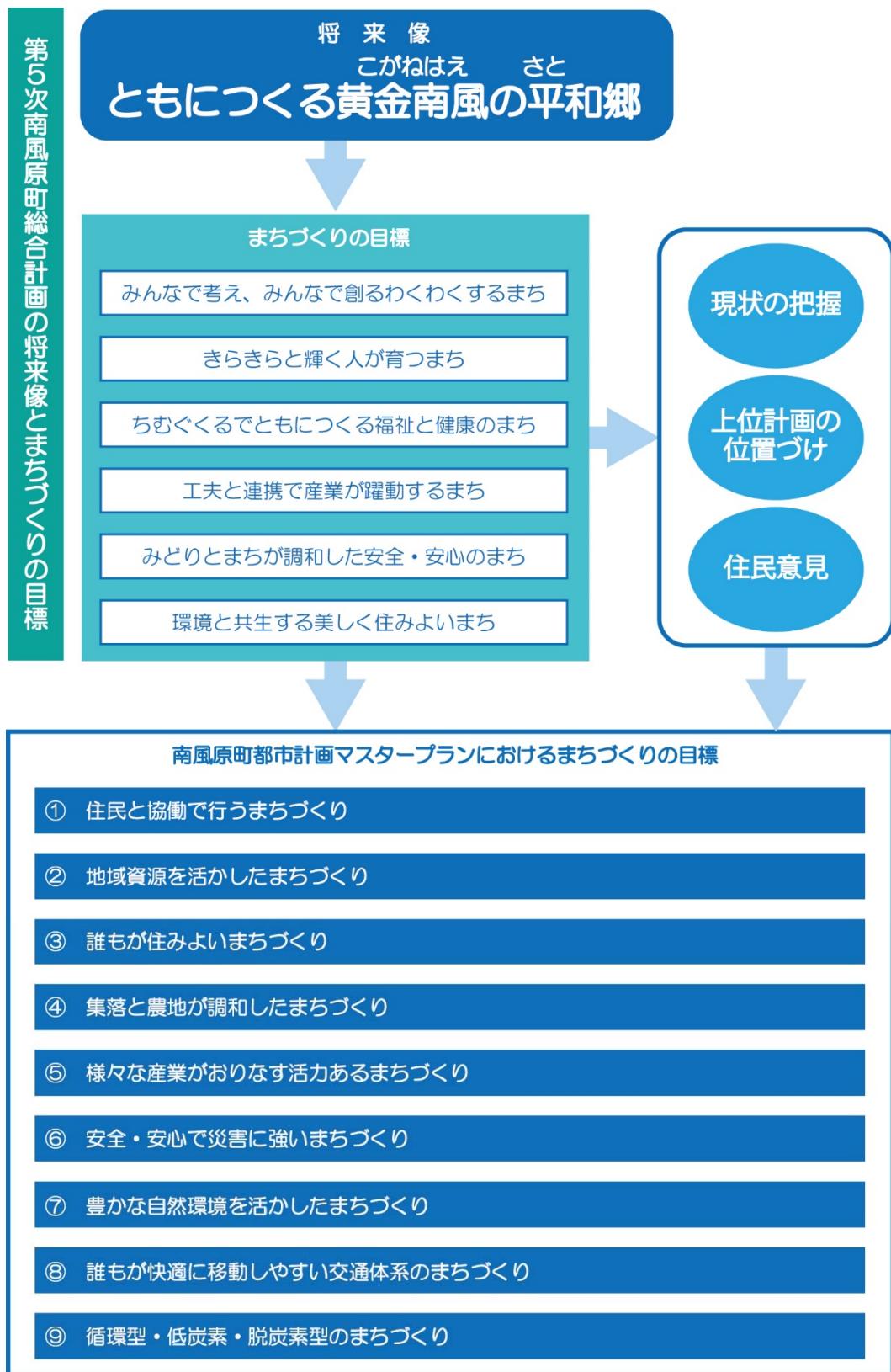
生産年齢人口の最高値



資料:国立社会保障・人口問題研究所

4. まちづくりの目標

本都市計画マスターplanでは、現状の把握や上位計画に示されたまちづくりの方向性、住民意向を踏まえて、下記の将来像やまちづくりの目標を実現するため、南風原町都市計画マスターplanにおける9つのまちづくりの目標を設定します。



【①住民と協働で行うまちづくり】

「自分たちのまちは自分たちでつくる」という意識向上を目指し、住民と協働で行うまちづくりを目指します。

【②地域資源を活かしたまちづくり】

地域に残る伝統・文化といった資源を大切にし、観光と連携したまちづくりを目指します。

【③誰もが住みよいまちづくり】

本町に暮らす人をはじめ学ぶ人や働く人、訪れる人にとって優しく誰もが住みよいまちづくりを目指します。

【④集落と農地が調和したまちづくり】

優れた集落環境を保全するとともに、良好な田園風景が広がる地域については、コミュニティの維持活性化が図れるよう、集落と農地が調和したまちづくりを目指します。

【⑤様々な産業がおりなす活力あるまちづくり】

広域的な交通機能を活かし、人やモノが交流する拠点の形成と様々な産業がおりなす活力あるまちづくりを目指します。

【⑥安全・安心で災害に強いまちづくり】

防災や減災への意識の高まりがみられることから安全・安心で災害に強いまちづくりを目指します。

【⑦豊かな自然環境を活かしたまちづくり】

三大森(黄金森、高津嘉山、新川森)を中心とした豊かな自然環境を活かしたまちづくりを目指します。

【⑧誰もが快適に移動しやすい交通体系のまちづくり】

住民に身近な生活道路から広域的な幹線道路まで安全に移動できる交通ネットワークを形成し、誰もが快適に移動しやすい交通体系のまちづくりを目指します。

【⑨循環型・低炭素・脱炭素型のまちづくり】

自然環境の保全、廃棄物の減量化と再資源化、省エネルギー対策への取り組み等により可能な限り環境への負荷を回避し、循環型・低炭素・脱炭素型のまちづくりを目指します。

■まちづくりの目標と分野別の方針の繋がり